

「丁寧に生きる、感謝と笑顔と。」

We keep on trying.

『挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校』に私たちはなる。」を説明しよう。

何より命を大切にしてほしいということは、君たちが一番よく理解している。その上で、一日一日を丁寧に生きてほしい。

「丁寧に生きる、」とはどういうことか、以前お伝えしたもののまねタレントのコロッケさんが大切にしている言葉「あおいくま」が適切だと思うので、紹介する。「あ：あせるな、お：おごるな、い：いばるな、く：くさるな、ま：まけるな」、そしてそれに「な：なげやりになるな」を加えて「あおいくまな」で丁寧に生きてほしい。もちろん人生は皆が初心者で、一度きりのものだということは言うまでもない。

「感謝と」は、当たり前のように思っていたことは、実は当たり前のことではなかったということは、コロナ禍で君たちがよく実感している。当たり前だと思っていたことが、実は誰かの献身・準備で整えられていたことに気付いた人も多かったのではないかな。感謝ができる人は、そこに気がつく人だ。そして、それを伝えられる人だ。「一歩ずつ与えられる人から 与える人へ変わって行けたなら」(『家族になろうよ』福山雅治)と考えられるということは、成長しているということだ。

「笑顔と。」は、外部の人が君たちに眉を顰めたり、首を傾げたりすることなく、外部の人が頬を緩めたり、目を細めたりして、温かく見守ってくださるように君たちが振舞うことができるようになるとともに、君たち自身が笑顔になれる雰囲気を作っていってほしいということだ。また、生徒と職員の間も対立ではなく、信頼関係のうちに、笑顔で会話できるような「生徒の居場所のひとつ」としての姫路別所高校でありたい。また、「心配より信頼」の考え方をますます定着させていきたい。

「We keep on trying.」はこれまでと同じで、「挑戦」し続ける気持ちを大切にしてほしい。学校は失敗も経験するところだ。やってみて壁にぶつかることも経験の内だ。「何もやらないで指さす誰かより やって転んでる人の方が 未来でモテるみたいだからさ」(『栄光の扉』平井大、熱闘甲子園)にもあるように、若い君たちは、失敗から工夫を重ね、できる範囲を広げたり、あるもので試行錯誤したりすることで成長する。また、成功することができれば、自信を体得することができ、できることが次へのモチベーションとなって、より一層成長する。失敗しても、元に戻せる時間もパワーもある。

「挨拶日本一の高校」は、随分定着してきた。自分から挨拶をしようとしている生徒の割合が100%を目標にしている。マスクの下でも笑顔で、相手の眼を見て、学校だけではなく、毎日会う人、近所の人、お世話になっている人(駅・コンビニ・・・)にも挨拶できる人になれば素敵なことだ。挨拶してくれる人は、声をかけやすい人であり、仕事の場面でもチャンスが与えられる可能性が高く、それがプラスに働き、成長の機会が多くなる。あいさつの「あ・い・さ・つ」は、「あ：明るく、い：いつも、さ：さきに、つ：つづける」ということだ。少しの意識で大きく変わる。いい挨拶ができるようになってきている。

「遅刻ゼロの高校」も君たちの努力の跡が見える。相手を敬うための基本中の基本だ。また、先に着いて、アドバンテージをもって、余裕をもって、準備万端で対応することは、社会人の基本として覚えておきたい。高校時代の習慣が大人になって効いてくる。これが当たり前にできれば、慌てることはない。

「～に私たちはなる。」と言い切ったのは、ワンピースのルフィの言葉「海賊王にオレはなる。」が印象的だからだ。「～目指して」から段階を引き上げ、こう宣言することで、有言実行することを内外に伝える。姫路別所高校でしかできないことを在校生が心ひとつにして取り組む。それが一人ひとりの成長につながるということを是非意識してほしい。先生方も心ひとつにして、誠実に取り組んでいってくれる。

癸卯(みずのとう)：一説によると、「癸(みずのと)」は静かで温かい大地を潤す恵みの水を表し、十干の最後にあたるため、生命の終わりと新たな生命の成長という意味がある。また「卯(う)」は穏やかなウサギの様子から安全、温和の意味を持ち、他にも跳ね上がるという意味があり、今までの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年だとされている。受験生に選んでもらえる高校への飛躍を期す。

We keep on trying. 「挨拶日本一の高校・遅刻ゼロの高校」に私たちはなる。 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩